

社会資本整備の推進

斉藤臨時議員提出資料

令和 3 年 12 月 3 日

社会資本整備の推進

- 激甚化・頻発化する自然災害や加速度的に進行するインフラ老朽化から**国民の命と暮らしを守る**ため、「防災・減災、国土強靱化のための**5か年加速化対策**」を**着実に推進**しつつ「より抜本的かつ総合的な**防災・減災対策**」と「計画的な**インフラの維持管理・更新**」に取り組む。
- また、コロナ禍からの**社会経済活動の確実な回復と経済の好循環を実現**するため、道路・新幹線・港湾等の**ストック効果の高いインフラ整備**や、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた**インフラ分野の脱炭素化**を進める。
- さらに、「**デジタル田園都市国家構想**」の実現をはじめとした**地方活性化**に取り組み、**インフラ分野のDX**や、ポストコロナ時代に即した**豊かで活力ある地方創り**、東京一極集中型から脱した**分散型の国づくり**を進める。
- これらの取組は未来を切り拓く「**新しい資本主義**」の**起動**に資するものであり、**戦略的・計画的**に取組を進めるためには、**安定的・持続的な公共投資が必要不可欠**である。

国民の安全・安心の確保

防災・減災、国土強靱化

○ 政府全体で総事業費概ね15兆円程度を目途とする「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」（昨年末閣議決定）により、取組を更に加速化・深化。

国土交通省関連の対策（53対策）

激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策（26対策）

予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策（12対策）

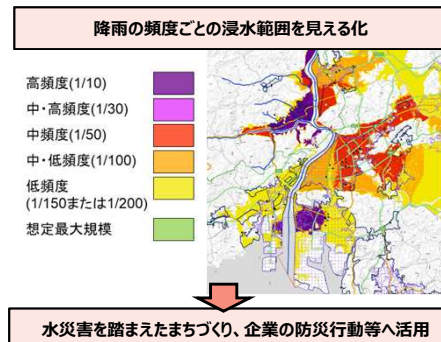
国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進（15対策）

○ 気候変動により激甚化・頻発化する自然災害から国民の命と暮らしを守るため、事前防災対策を加速化するとともに、「流域治水」の本格的実践、線状降水帯の予測精度の向上や、盛土による災害の防止等に取り組む。



流域治水のイメージ

【「流域治水」の本格的実践に向けた取組】



水災害を踏まえたまちづくり、企業の防災行動等へ活用

水害リスクマップ等による水害リスク情報の充実



線状降水帯の発生例 (赤橋南部)

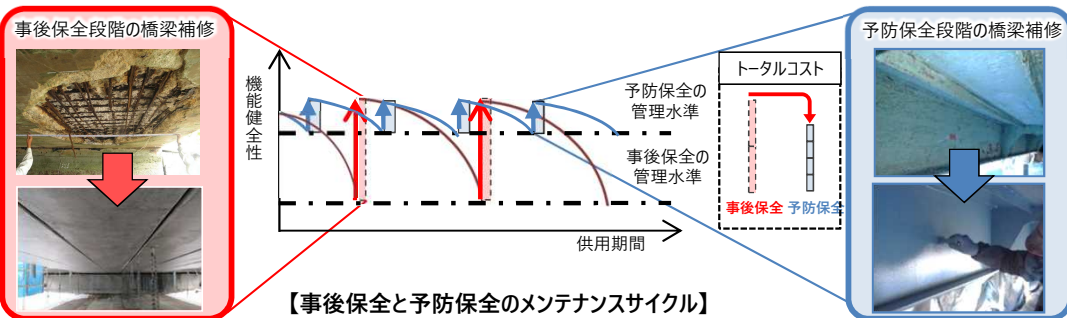
【線状降水帯等に関する防災気象情報の高度化】



【盛土による災害の防止】

持続可能なインフラメンテナンスの実現

○ 加速度的に進行するインフラ老朽化に対応するため、早期に対策が必要な施設の修繕を集中的に実施し、インフラの機能に支障が生じる前に対策を行う「予防保全」への本格転換により、メンテナンスコストの縮減を図る。

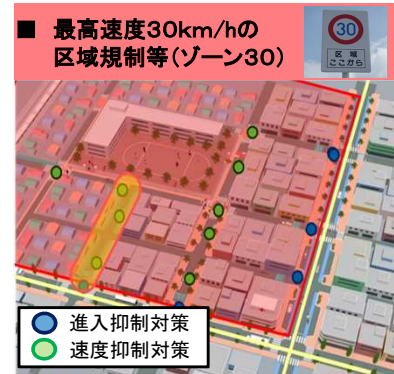


【事後保全と予防保全のメンテナンスサイクル】

通学路等における交通安全対策

○ 通学路や生活道路において、警察等関係機関と連携し、交通規制等のソフト対策に、ハンブ等の物理的デバイスを適切に組み合わせる「ゾーン30プラス」、歩道の設置、防護柵の整備等により、人優先の安全・安心な通行空間を確保。

＜警察による交通規制＞



＜道路管理者による物理的デバイスの設置＞

